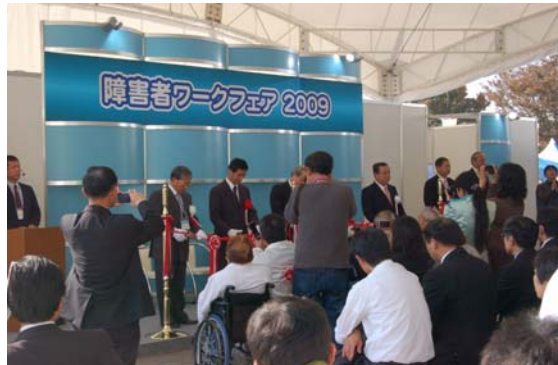


## 「障害者ワークフェア2009」に参加しました

～「障がいも個性、働くマインドは同じ！と伝えよう」～

10月30日、31日、茨城県ひたちなか市で開催された「障害者ワークフェア2009」に行ってきました。全国障害者技能競技大会（アビリンピック）と同時開催されるこのイベントには、日本各地から多くの企業や団体が参加します。

クラルティは今年で3回目の参加。今年の出展テーマはCSR行動目標である「障がいも個性、働くマインドは同じ！と伝えよう」です。はたして、会場の反応はどうだったのでしょうか。ワークフェアの様子をレポートします。



写真：障害者ワークフェアの開会式

### ◆クラルティの出展内容はこれだ！

特例子会社として、障がい者雇用を進めているクラルティ社。どんな会社で、社員がどのように働いているのかを伝えるためにこちらを用意しました。

1. 写真入りパネル（会社概要、バリアのない職場をめざして、業務の案内）
2. 会社案内、営業用チラシ
3. 社員の活動を「見える化」したビデオ映像
4. 社名入りノベルティ（イヌとタヌキのマグネット）
5. ブラインドサッカーアジア選手権大会チラシ+協会公認ボール+日本代表選手



写真：会社を紹介する写真入りのパネル



写真：社名入りノベルティ



写真：サッカーボールなどを展示した様子

モニターでは、3本の映像を流します。1本目は「特別支援学校就労促進ビデオ（東京教育委員会制作）」。村井さんと重村さんが業務や採用について語っています。2本目は「NHK おはよう日本首都圏：夢中です、ブラインドサッカー」、田中さんが練習に励む姿や会社で働く様子がバッチリ放映されています。3本目はご存じ社内制作「手話ビデオ」。社長インタビュー編と秋の味覚編、それぞれ字幕やろう者のメンバによるお手本付きです。

また、12月に開催される「ブラインドサッカーアジア選手権大会」のPRも手伝おうと、協会公認ボールを借りてきました。もれなく日本代表選手の解説もサービス！

#### ◆お客様の反応は？

2日間を通して、ブースに来場されたお客様はのべ300人くらいでした。企業、学校、支援機関の関係者の方々が多い中、NTT労働組合持株本部の皆さん、NTTのOBの方や、アビリンピックに出場する息子さんの応援に来たNTTグループ会社の社員の方も立ち寄ってくださいました。出展者同士の交流も盛んに行われ、関係団体や関西・九州などの特例子会社の皆さんとも親しくなる絶好の機会となりました。

特に、手話ビデオが目をつけたようで、聴覚障害の当事者や関係者が多数来場されました。「誰がつくるの？」「インターネットで見られるの？」「社員が手話を覚えているのですか？」「聴覚障がいの方は大勢働いているの？」「社内でのコミュニケーションはどうしているの？」など、話が広がります。織田さん、石巻さんによる手話での対応も喜ばれました。

2日目は早朝から地域の小学校の5、6年生がドドッと来場し、ブース前の前がいっぱいになりました。ここでは、サッカーボールから話が始まります。

小学生：「サッカーボールだ。あれ、音がでる！」

クラ：「視覚に障がいのある人がやるブラインドサッカーのボールです。秋にアジア大会があるので応援してね。」

小学生：「選手なんだ」、「わあ、すごい。がんばってね」、「応援します！」

クラ：「この白い杖を知っていますか？」（と、実物を見せる）

小学生たち：「知らない」、「わからない」

クラ：「視覚に障がいのある人は白い杖を持っています。もし、白い杖を持った人が困っているのを見かけたときには、どんな風に声をかけたらいいと思いますか？」

小学生たち：「わかんない」「どうするの?」「声かけてもいいの?」

クラ：「普通に歩いているときは何もしなくていいのですが、困っている様子の時には、『何か手伝うことはありますか?』って声をかけてくれると助かります。」

小学生たち：「そうなんだ」、「わかった!」、「タヌキのマグネット、もらっていい?」



写真：小学生のお客様に説明している様子

#### ◆私たちができることを続けよう

2メートル×2メートルの限られたブースで、私たちの会社や私たちの働くマインドをどれだけ伝えることができたかはわかりません。でも、「働くために、何を勉強すればいいのですか?」という特別支援学校の生徒さんに、実際の職場のことを伝えることができました。働くことへのイメージや意欲を持ってもらえたなら一つの成果です。地域の小学生たちにブラインドサッカーや白杖のことを知ってもらえたことだって、障がいを理解してもらったきっかけになったかもしれません。このような一歩が広がっていけば、いろいろな人が働く社会への理解も深まると思いませんか?

CSR行動目標である「障がいも個性、働くマインドは同じ!」を伝えていこう」は、身近な小さなことから始められます。これからも私たちにできることを続けていきましょう!